

様式 2

教 科
数 学

種 目
数 学

発行者
学校図書

調 査 項 目	意 見
1 知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 各単元や節の導入で、身に付けたい知識や技能を紹介し、そこから問題解決を行っていくような構成になっており、知識や技能を確実に身に付けられるよう十分に工夫されている。 全体的に知識や技能を身に付けてから習熟を行っていくという流れであり、単元や節全体を1つの流れとしてみていくと、問題解決的な学習になっている。また、単元末に「深めよう」という項目を設け、問題解決的な学習ができるように工夫されている。 1つの学習ごとに「確かめよう」という項目で習熟を図る練習問題が位置付いている。また、章末には、「まとめの問題」があり、「基本」「応用」「活用」という順番で構成され、習熟の程度に応じた学習ができるよう十分に工夫されている。 領域の最初に「ふりかえり」として、その学年で学習する内容の基礎・基本となる項目を挙げたり、各問題の側注にも「ふりかえり」として、問題解決のヒントとなる事項を挙げたりするなど、既習内容を想起できるよう十分に工夫されている。
2 主体的な態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教材としては、身近なものを素材として挙げて学習を進めていく構成になっている。また、図形領域では、単元の最初に実際に図をかくことで図形の性質を見つけられるように工夫されている。 基本的な知識や問題の解き方などの技能を最初に扱い、それをもとに応用的な問題の解決を図るような流れとなっている。また、論理的に考察する場面では、問題の下に「伝える」と表記し、話し合いができるような場面設定の工夫がされている。 例が多く示されていて、その例を手掛かりに問題が解決できるようになっている。また、説明や解き方などは丁寧に示してあり、それを見れば、解き方が分かるようになっている。さらに、「問」の中には空欄を埋める問題があり、家庭等でも学習できるように十分に配慮されている。
3 「地域社会人」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 章や節の末に、「クローズアップ」として、数学に関する歴史を中心に取り上げたり、「深めよう」として、身近な素材を取り上げて解決していく学習を行う場を設けたりするなど、日常生活にかかわらせて学習できるよう十分に工夫されている。
4 印刷・造本	<ul style="list-style-type: none"> グラフや図などがかきやすいように、適度な大きさの表や枠が準備されるなどの配慮が十分にされている。 重要なポイントは背面の色を変えるなど、一目でポイントが分かるよう十分に工夫されている。
5 総 評	<ul style="list-style-type: none"> 1単位時間の学習に関わる教材をもとに、基本的な知識及び技能を紹介し、「例」「問」と徐々に応用的な学習ができるように工夫されている。また、基礎的・基本的な知識及び技能の習得の上に、思考力、判断力、表現力を育成するように配慮されている。 領域や単元のはじめに、既習事項や学習の流れが見通せるようなページを配置するなど、系統性を十分に配慮した構成になっている。また、章末の問題を発展的に取り組めるようにするなど、習熟の程度に応じた学習ができるよう十分に工夫されている。